

第242号
平成25年
2月23日

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL 5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL 090-2657-0300

やわらぎ処 ギャラリーさとう

「作品をゆっくりご覧下さい」

昨年、南千住にギャラリー（画廊）さとうを開いた佐藤かつのり（勝紀）さん（70歳）は北海道室蘭出身です。高校時代から本格的に描き始め、会社に勤めながら油絵中心に水彩を含め約千点の作品を描かれてきました。風景、人物、静物などが多くあります。

日本美術会会員、職美展会員でもあり、銀座や京橋で個展も開きました。また、韓国・京都で開催された日韓交流展にも出品されました。亡くなった奥様とは、美術評論家として夫婦同じ方向性を持って助け合っていました。

「戦いです。」



絵を描いている時は、真剣勝負です。集中して筆をとります。作品ができあがるとホッと力が抜けます。

水彩画は、一発勝負で直しがききません。油絵は、油画（ユガ）・油彩画（ユサイガ）とも言われ、色を積み重ねては削る作業で納得のいく作品ができあがります。

「色がきれい」

絵を見るのに理屈は、ありません。た

だ、空が青くて明るいと感じていただくだけでいいのです。どことなく、惹かれる絵には、自分自身の内面が潜んでいると思われれます。その色や風景が自分のはるか遠くの記憶を呼び起こしてくれ、やすらぐのではないのでしょうか。

6坪の画廊の白い壁に掲げられている絵は、不定期に代わります。

昨年発刊された画集の画家の根岸君夫さんの寄せられた言葉に、感興の赴くままに見る人を強く刺激し、それでいて独特の温かさがあるとあります。2階のアトリエ

（工房）には、

所狭しと絵が置かれており、とても静かな空間でした。

2年前より、

陶芸も始めら

れ、海外に単身取材旅行に行かれるなど、穏やかなお人柄からは想像できない程、熱く意欲的です。

「皆さんと縁を」

中に入ると外の喧騒から離れて、やわらぎの空間です。入って来られた方と柔らかな時間をもちたいと佐藤さんは願っております。海外でのお話や絵の説明をイスに座って聞いてみられるといかがでしょうか。



折りたたみチェアで昼寝する労働者

左記の絵は、水彩画です。油絵の色合いの美しさは、ギャラリーに入って堪能していただけたらと思います。お気に入りの一枚が気持ち温めてくれます。

ご来場された方には、佐藤さんの綺麗な絵ハガキがお土産でプレゼントされます。佐藤かつのり画集は、ギャラリーさとう、南千住の書店でもお求めになれます。

ここです

●南千住警察署

●ガリンスタンド

●コンビニ

日光街道

◇ギャラリーさとう◇

南千住 5-11-17

TEL&Fax (3803) 5326

開館時間 12時～18時

定休日 水曜日

入場 無料

